

令和7年度 学校教育自己診断【教職員】 結果概要

1. 実施について

- (1) 実施時期 令和7年 10月31日～11月17日
- (2) 対象 全教職員
- (3) 実施方法 Google フォーム用いたアンケート調査
- (4) 設問数 9項目
- (5) 回答項目 「A よくあてはまる、B あてはまる、C あまりあてはまらない、
D まったくあてはまらない、E わからない」の5項目
- (6) 回答率

	回答率
小学部	100%
中学部	100%
高等部	100%
合計	100%

(7) 分析方法

ABの回答を肯定的意見、CDを否定的意見として分析

2. 結果と分析

- ・肯定的評価(A+B)の全体平均:90.9%
- ・前年度比+9.4% と、学校運営や教育活動について、教職員の評価は全体として大きく向上。

〈特に評価が高い項目〉

- 3. カウンセリングマインドを生かした生活指導(肯定的評価:95.7%)
- 9. 人権尊重に基づいた支援・指導(肯定的評価:96.3%)
- 4. 発達段階や実態に応じた進路指導(肯定的評価:95.7%)

これらの項目はいずれも 95%前後の肯定的評価となっており教職員の中で、「共感的姿勢をもった生活指導」、「人権尊重」、「発達段階や実態に応じた進路指導」という支援学校として大切にしている部分が高評価。「子ども一人ひとりを大切にする姿勢」が、教職員間で共通認識として定着
「人権尊重」については、保護者の評価も 89.7%と高く、教職員、保護者共通して高く評価されている。

〈伸びが顕著な項目(前年度比)〉

- 2. 教育活動の評価を次年度に生かしている(87.0%)(前年度比: +17.7%)
- 5. いじめ対応体制(89.4%)(前年度比: +12.5%)
- 8. 保護者・地域への情報発信(87.0%)(前年度比: +13.6%)

前年度より10%以上改善。

学校全体として教育活動の振り返り→改善→次年度への反映ができており、いじめ対応体制の強化、情報発信
についても改善が進んでいることがうかがえる。